

ヌートリア捕獲マニュアル



平成 19 年 3 月

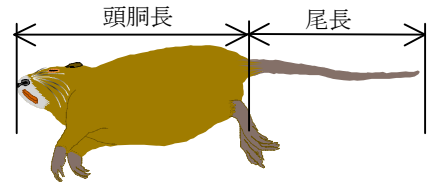
大 阪 府

1. ヌートリアとは

- ヌートリアは南米原産の大型げっ歯類（ネズミの仲間）です。
- 毛皮を利用するために養殖用として第二次世界大戦頃輸入され、その後各地に広がりました。

(1)体の特徴

- 成獣では雌雄とも平均体重 4～5kg です。
- 頭胴長(鼻先から尾の付け根まで)は 50～70cm、尾長は 35～50cm です。
- 全身は茶色、尾は黒くて長く毛がありません。
- ネズミ独特の大きな前歯（オレンジ色）があります。
- 物をつかむことのできる小さな手と水かきのついた大きな足を持っています。



補足情報

海外のヌートリアは8kgを越えるとも言われているが日本のものは少し小さく、成獣の平均体重は4.3kg程度(愛知県個体データ:曾根, 2003)。ただし時には6～7kgの大きな個体が見つかることもある。手足が短いためネコやタヌキよりもずっしりした印象を受け

(2)繁殖

- 年に2～3回繁殖可能ですが、春に出産することが多いようです。
- 妊娠期間は約4ヶ月で、一度に1～12頭(平均5頭)の子どもを産みます。
- 子どもは毛が生えた状態で生まれ、雌は生後約4ヶ月で妊娠可能となります。

補足情報

雄と雌に大きさや外見の差はなく、一見ただけでは見分けがつかないが、雄は生後7～10ヶ月で性成熟が完了すると、精巣が外から触れるようになるため、判別することができる。雌は4～5ヶ月で性成熟が完了し妊娠可能となる。子どもを産んで授乳したことがある雌の乳首は大きく目立ち、未産の個体とはっきり区別がつく。ただし、乳首は一般の哺乳類よりも背中寄りにあるため注意が必要である。

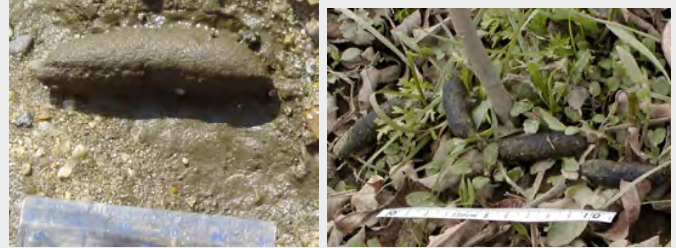
雌雄とも、鼻先から尾の付け根までを直線的に計測する頭胴長(上図参照)が35cm未満なら幼獣、45cm以上なら成獣、その中間が亜成獣と判断される(曾根, 2003)。

(3)特徴的な痕跡

- 前足(手)跡は4本の指が目立ち、後足跡は水かきのため指の判別が困難です。
- 糞は直径1~1.5cm、長さ3~4cmのウィンナーソーセージ様で、色は緑色から黒褐色です。
- 繁殖や休息、避難の場所として土手などに直径20~30cm、奥行き1~6mの枝分かれしたトンネル状の巣穴を掘ります。



ヌートリアの手(左)と手跡(右)



ヌートリアの糞1個(左)の時も多数の時(右)もある



ヌートリアの足(左)と足跡(右)



ヌートリアの巣穴



いくつもついた
ヌートリアの足跡
(進行方向は右から左)

補足情報

前足の指は5本あるが、親指は小さいため足跡では4本の長い指の跡が目立つ。後足の指も5本あり、第1指(親指)から第4指(薬指)までの間に水かきがあるため、足跡では指の形がわかりにくく大きな足の裏があるように見える。成獣の場合、指の長さはおよそ3~4cm、かかとから指先までおよそ12~15cm。ヌートリアが歩くと、前足の足跡の後ろに後ろ足の足跡が重なるため、後足の足跡はわかりにくいことが多い。

ヌートリアの糞は、新鮮な時には湿って明るい緑色をしているが、時間が経つにつれ乾いて黒っぽくなっていく。1個だけ見つかることも、3~5個集まっていることもある。

巣穴の入り口はほとんどが水際より1m以内の場所にある。水際の土がせり上がったところ、土手のようになったところに横向きに掘られることが多い。このような巣穴のほかに、水辺の草を集めて平らな円形の浮き巣を作ることもある。これはプラットホームと呼ばれ、最初は粗く見えるが、徐々に植物が積み集められていき、高さ数十cmになることもある。この浮き巣の上で、繁殖も行われる。

(4)行動

- 泳ぎが得意で河川や湖沼の水辺で生活し、水際から 10m 以内にいることがほとんどです。危険が迫ればすぐに水の中に入ります。
- 夜行性ですが、昼間にも行動します。
- 水生や陸生の植物の葉や茎、根茎などを好んで食べる草食動物ですが、貝や甲殻類も食べることがあります。



泳ぐヌートリア



草を採食中のヌートリア

補足情報

夕暮れと夜明け頃に活動が最も活発になるが、餌付け個体では餌を求めて昼間に行動することもある。濡れた体を毛づくろいするために、目立つところに上陸していることもある。三浦（1977）によれば、オス成獣は流域長 $1300 \pm 650\text{m}$ 、幼獣は流域長 $430 \pm 50\text{m}$ を移動し、メス成獣はオスよりもやや狭い範囲を利用している。水際から 10m 以内で生活していることがほとんどで、最大でも 20～25m 以内を利用している。

(5)ヌートリアによる被害

- 水稻の食害が最も多く、水田では畦の破壊による漏水も起きていています。
- その他ニンジン、サツマイモ、キャベツ、レンコン、トマト、カボチャなどの野菜被害も発生しています。
- 在来の水生植物や二枚貝などを採食するため、生態系への影響も危惧されています。



ドブ貝の採食あと

(標本提供：
岡山県自然保護センター)



ニンジンのかじりあと

補足情報

川や水路を使って生息範囲を広げ、土手に巣穴を掘るため水害の危険性なども指摘されている。ドブ貝など二枚貝を捕食することから、二枚貝に産卵するタナゴ類への影響も心配されている。大食漢のため、マコモ、ヨシ、ショウブ、ヒシ、ハス、ウキクサなど水生植物の減少が見られるところもある。

2. ヌートリアの捕獲方法

(1) 捕獲器

- アライグマやネコなど中型哺乳類用の捕獲器で捕獲できます。
- 安全な水上の上陸場を好むヌートリアの習性を利用し、1m×1.5m 以上のイカダで人工的に休息場を造り捕獲する方法は、錯誤捕獲（捕獲対象以外の動物の捕獲）も少なく効果的です。



アライグマ捕獲器



イカダ式捕獲装置

補足情報

(a) 捕獲器

これまでに捕獲実績のある捕獲器の大きさは、幅 23～30cm、高さ 23～40cm、奥行き 75～81.5cm。

踏み板式（踏む扉が落ちる）でもフック式（引っ張ると扉が落ちる）でも捕獲できる。踏み板式の場合は、確実に踏み板を踏ませるために奥に餌をしっかり固定しておく。フック式の場合、ヌートリアは餌を手で持つあまり動かず静かに食べることから、小さな力で作動するようにフックを調整しておく。

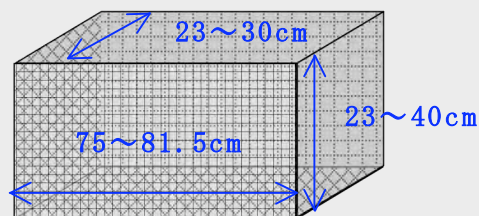
捕獲器の入り口は水際、巣穴、休息場への登り口など、ヌートリアがやってくる方向に向けるのが良い。明らかな上陸場所がわからない場合や、少し離れたところに檻を設置せざるを得ない場合は、捕獲器へ誘引するように、少量の餌を蒔くことも有効である。ただし、あまり長い距離は誘い込めない。

(b) イカダ式捕獲装置

中型哺乳類用捕獲器では他の哺乳類が捕獲される可能性がある。錯誤捕獲は無用なストレスを野生動物に与えることになり、またその間はヌートリアを捕獲できないことにもなるため捕獲効率が低下する。

1m×1.5m 以上のイカダを人工休息場として水面に浮かべ、餌をおいてヌートリアの上陸を誘い、その上に固定した捕獲器で捕獲するという方法がある。この方法を用いると錯誤捕獲を防ぎ、ヌートリアだけを効率よく捕獲できる。イカダの上に餌を置き、様子を見てヌートリアの上陸が確認されてから捕獲器を設置すればさらに効率的である。上陸がなかなか認められない場合は、設置場所を再考する。

イカダは丸太で作成したり、木材の周囲に浮き環を配置したり、発泡ポリエチレン板などを利用することが可能であるが、素材ごとに浮力を確認し、ヌートリアが上陸した際にひっくり返ったり沈んだりしないように注意する必要がある。またイカダが流されないようにしっかり固定しておくことも重要である。



(2) 餌

- ニンジンが最もよく用いられています。
- ヌートリアの大好物で腐りにくいニンジンやサツマイモを、捕獲器の最奥にヒモや針金でしっかりしばって固定すると、踏み板のあるところまで確実にヌートリアを誘うことができます。
- 捕獲器の入り口付近や、水際から捕獲器までの間に餌をまくと、捕獲器に誘い込むのに効果があります。その際、扉の開閉の支障とならないよう注意してください。



捕獲器の奥にニンジンを固定する



葉がついていればそのまま使う



誘い込むために捕獲器の入口付近（左）や水際から入り口にかけて（右）餌をまく



補足情報

最もよく用いられている餌はニンジンである。金時ニンジンがよいという意見もあるが、西洋ニンジンでも捕獲できており、特に問題はない。次いでサツマイモが良く用いられている。ヌートリアは甘みの強い、臭いがあるものを好むこと、また捕獲にあたっては腐りにくく、扱いやすいことも餌選びの要点となる。まき餌や、イカダ式捕獲装置での餌付けに際しては、細かく裁断できる葉物野菜も使いやすい。いずれも水質汚染や、水鳥、他の哺乳類などの生息状況などを考え、生態系に影響のない餌選びをする必要がある。

(3)捕獲器の設置場所

- 捕獲の成功率が最も高い場所は、巣穴の前、ヌートリアが休んだり採食しているのを目撃する休息場、上陸場です。
- ヌートリアは水辺から離れることを極端に嫌うため、捕獲器はできるだけ水際に仕掛けましょう。入り口は水辺側に向けるか、ヌートリアの進行方向を考えて決めるのが良いでしょう。



巣穴前で捕獲されたヌートリア



イカダ式捕獲装置で捕獲されたヌートリア



上陸地点に設置した捕獲器



休息場で捕獲されたヌートリア (2台に各1頭ずつ)

補足情報

捕獲器はただ置けばよいというものではない。頻繁に目撃される場所か痕跡が複数確認された場所に置くことが肝要である。目撃情報は精査し、遊泳個体の目撃地点ではなく、河川敷や小島、構造物などへの上陸が確認されている地点に設置した方がよい。ヌートリアは比較的警戒心が低いため、巣穴や上陸場などで複数個体の利用が確認されている場合には、利用個体全体を捕獲することも可能である。

池などではっきりした上陸ルートがわからない時や遊泳個体の情報しか得られない場合には、前述した人工的に休息場を作り出し誘い込むイカダ式の捕獲が有効である。

(4) 設置における注意点

- 1日1回必ず見回りをしてください。
- 錯誤捕獲(捕獲対象以外の動物の捕獲) 個体は速やかに放獣してください。
- 捕獲器が流されたり水没したり、あるいは持ち去られたりしないよう、立木や構造物に固定してください。
- 取り扱い時には、ケガや衛生管理に気をつけてください。
- 捕獲個体は適正に処分してください。



捕獲器の固定の例



捕獲器を咬む捕獲されたヌートリア

補足情報

水際に捕獲器を設置することになるため、水量の増加や水流によって捕獲器や捕獲動物が流されないよう、立木や構造物などに檻をしぼっておく。水没する可能性のある場所には設置しないか、イカダ式捕獲装置を用いる。

見回りを1日1回行うこと、錯誤捕獲個体は速やかに放獣することが法律で義務づけられている。

ヌートリアに限らず、野生動物は病気を持っていることがある。ヌートリアは基本的におとなしい動物だが、追いつめられたり、興奮すると暴れたり噛みつくことがある。また爪も長いため、捕獲個体の入った捕獲器を取り扱う際には手袋をはめ、捕獲器を自分の体から離して持つなど注意する。

(5) 法的手続き

- 外来法もしくは鳥獣法に基づいて捕獲を実施しなければなりません。
- ヌートリアは環境省によって特定外来生物に指定されており、放獣は禁止されています。
- 運搬については外来法の手続きが必要です。

補足情報

ヌートリアは「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(外来生物法)で『特定外来生物(生態系等に係る被害を及ぼし、又は及ぼすおそれのある外来生物)』に指定されている。そのため①飼養(運搬含む)・譲渡の禁止(許可を受けた場合を除く)、②野外へ放つこと等の禁止などの規制があるため適切に扱う必要がある。また、「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」(鳥獣保護法)に基づく有害鳥獣制度も定められている。ただし、この場合でも運搬については別途外来法の手続きが必要である。

引用文献

- 三浦慎悟. テレメトリー法によるヌートリアのホームレンジの推定. 1977. 文部省科学研究費 総合研究(A)「テレメトリーによる動物行動の解析」. 22-26.
- 曾根啓子. 移入動物ヌートリアの齢査定、繁殖ならびに胎子の成長に関する研究. 2003. 名古屋大学大学院生命農学研究科生物圏資源学専攻生物圏動態論講座(動物管理学). 修士論文. 51pp.

問い合わせ先

大阪府環境農林水産部
動物愛護畜産課 野生動物グループ
TEL: 06-6941-0351 (内線 2746)

制作: 株式会社野生動物保護管理事務所